



評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版、省エネルギー性能評価システム7.0版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	上志段味方面中学校(仮称)	階数	地上4F
建設地	名古屋市守山区大字上志段味字二之輪1723番7	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	850 人
地域区分	6地域	年間使用時間	30,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,学校,	評価の段階	
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年1月29日
敷地面積	16,600 m ²	作成者	
建築面積	4,335 m ²	確認日	2024年10月22日
延床面積	11,085 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 88% 86% 86% (kg-CO₂/年・m²) 46 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
今後更なる発展が想定される上志段味地区において、地域の発展を未来へ継承するために、地域への愛着と豊かな人間性を育む「場」が必要となる。そのために、個々の可能性を引き出し、完成を刺激し、人と学びをつなぎ、様々な情報が集まり、交わる、そのような知を生み出し、発信する「学びの丘」を計画する。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
川沿いの風を利用した自然通風、小庇による日射の遮蔽、建物全体の高断熱化により冷房負荷の低減。	地域住民の避難所として、災害時のインフラ途絶時にも避難所機能を維持。	敷地外周部の道路との境界部分や敷地内の通路の周辺部分を緑化することで地域の景観に潤いをもたらすと共に地球温暖化やヒートアイランド現象にも配慮した計画。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率機器の導入によりエネルギー消費量の削減を目指す。	雨水利用や再生資源を使用する等、資源の保護、削減に努める。	高層部をセットバックさせて、近隣住宅との十分な隔離を取り、住宅地の良好な環境を確保。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

上志段味方面中学校(仮称)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。